

常陸大宮高校は、パラオ共和国からの研修生の訪問を受けました

1月24日（水曜日）、常陸大宮高校は、常陸大宮市のパラオ共和国研修生3名の訪問を受けました。

常陸大宮市は、東京2020オリンピック・パラリンピックにおけるパラオ共和国選手団の事前キャンプ地及びホストタウンとなることから、その準備の一環として、昨年4月より1年間の予定で、パラオ共和国からの研修生3名を受け入れており、研修生たちは、市内外で開催される各種イベントへの参加や市内の学校への訪問を通して、パラオ共和国のPR活動や、友好の架け橋となる活動に努めています。

研修生たちは、1・2年の各HRごとに、パラオの歴史や文化、日本との関係などについてプレゼンテーションを自作のスライドと流暢な日本語を用いて行ってくれました。本校の生徒たちも、パラオの美しい海や常陸大宮市との歴史的な関係についての説明を真剣に聞き入っていました。

プレゼンテーションの後には交流の時間が設けられました。生徒たちからは英語と日本語の混ざった楽しい質問が飛び交い、研修生からの「パラオに行ってみたいですか？」との問いかけに対しては、「行ってみたい」との手が全員から挙がるなど、教室内は和やかな雰囲気のもと終始笑いに包まれていました。

その後も研修生と生徒たちが昼食を一緒に食べたり、一緒にバスケットボールを楽しむなど、常陸大宮市のホストタウン成功を予感される光景が随所で見られました。

今後も引き続き、生徒との交流を目的とした訪問が計画されています。

